

# 平成27年度 施策評価表 (平成28年度向け施策の取組方針)

施策名: 生涯学習  
 施策番号: 02 - 01

## 1 施策の基本情報

施策名	02 生涯学習	展開方向	01 市民の主体的な学習や活動を支援するとともに、学習の成果を地域社会に活かすことのできる人づくり・しくみづくりを進めます。
プロジェクト項目の該当有無	-		
市長公約の該当有無		15 社会教育事業を進展させた仕組みとして「まち大学あまがさき」を推進	
局重点課題項目の有無		社会教育・地域力創生事業の推進	
担当当局	教育委員会		

## 2 目標指標

指標名	方向	基準値	目標値 (H29)	実績値					現時点での達成率
				H25	H26	H27	H28	H29	
生涯学習推進事業等講座受講者数(公民館利用者数の内数)	H24	15,053	人 15,053	16,034	16,795	**	**	**	100%
あまなびサポートデスク問合せ件数(1館あたりの1月平均)	H26	2.5	件 30	**	2.5	**	**	**	0%
地域活動の中で、生涯学習の成果が活かされていると感じる市民の割合	H23	5.9	% 6.4	4.4	7.2	**	**	**	100%
図書の出し冊数	H24	149万	冊 150万	140万	137万	**	**	**	0%
図書館行事への参加人数	H24	7,429	人 7,800	7,065	7,764	**	**	**	90.3%

## 4 担当局評価(一次評価)

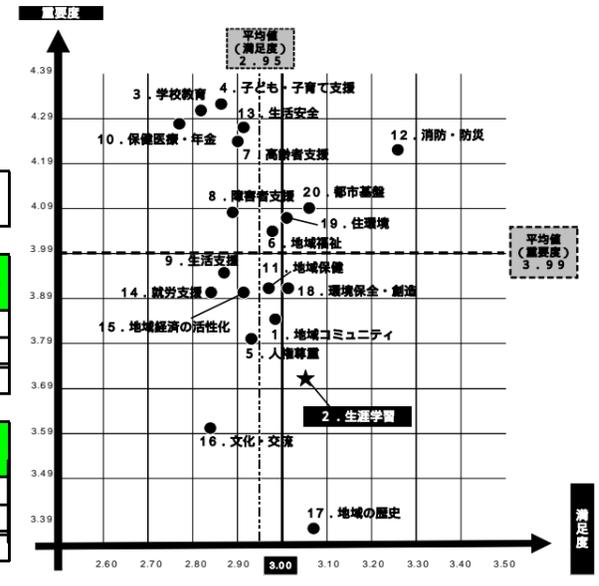
これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)	
行政が取り組んでいくこと	生涯学習活動の支援と成果の活用・人材育成の推進 【多様な学習機会の提供と情報発信による市民参加の促進、関係機関との連携による社会教育施設の有効活用等】 尼崎学びのサポート事業 地域を自主的に支える人材の育成など生涯学習が担う役割が大きくなってきているなか、平成26年度は生涯学習情報誌「あまナビ」を新たに発行するとともに、相談窓口「あまなびサポートデスク」を社会教育課及び6公民館に設置した。「あまナビ」については、市民から好評を得るなど成果をあげることができたが、引き続き市民との協働の取組を進めていくとともに「あまなびサポートデスク」については179件の相談に留まったことから、平成27年度からは中央図書館及び北図書館にも設置するなど更なる周知に努めていく。また、新たにブログ「まなびの宝宝箱」を開始し、市民参加の促進等に努めている。(目標指標) 図書館行事事業等 図書の出し冊数については読書離れが指摘されるなか、減少しているものの、前年度比では平成25年度9万冊の減が平成26年度は3万冊減に留まってきた。行事参加者数については、子どもを対象とした夏休み宿題おたすけデスクや季節イベントに加え、大人を対象とした特別講座・映画会など読書推進につなげる新たな事業を実施した結果、前年度を699人上回ることもできた。また、平成27年度からは貸出冊数の上限を15冊に増やすとともに、児童室の開架時間の延長、ブックオーナーズ制度の導入等により、児童書の出し冊数の増加に努めていく。更に、子ども向けの新たな事業に加え、利用の少ない成人層を対象とした特別講座の開催、関係機関と連携した事業の実施など来館者数や行事参加者数の増加を図っていく。(目標指標) 生涯学習推進事業等 市民の主体的な学習や活動を支援し、学びを通して市民の交流が図れるよう、各種講座を実施するなか、受講者数は増加しており、そのうち自己の能力や生活の向上にも資する学習機会を提供する市民大学講座は、受講者から根強い人気となっているものの、サッカーロボットプログラム講座については、参加者数が減少した。平成27年度はサッカーロボットプログラム講座の受講料等を見直し、参加者増を図る。更に、地域・現代学講座では、地域社会及び現代社会の課題を解決する機会を提供するとともに、地域学習館や学校等で実施している地域出かけ事業では、学びを通じた地域での仲間づくりに加え、地域に内在する課題を解決するしくみづくりに努めていく必要がある。(目標指標) 【市民・ボランティアとの協働と学習グループ等の活動支援】 図書館行事事業等 ボランティアとの協働については、平成26年度、読み聞かせ105回、対面朗読286回実施したほか、公民館図書室の書架整理を行っており、引き続き、取組を継続していく。 生涯学習推進事業 市民企画委員と共に企画・立案し実施している講座などを通して、市民目線で新たな課題の発見や解決法を見出すことを促し、市民が「協働によるまちづくり」に参画するきっかけをつくることと、市内在住・在勤の外国人が地域社会に参加できるよう、市民が日本語ボランティア講師を務める日本語よみかき学級も人気の高い事業となっている。(目標指標) 【学習の成果を発表する機会やボランティア活動ができる機会の充実、学習の成果を地域づくりに活かせるようしくみづくり】 学社連携推進事業 学校図書ボランティア育成事業については、参加校が増加し参加者からも好評を得た。また、平成27年度からは特別支援ボランティアの育成や地域による土曜学習支援モデル事業など、ボランティア活動ができる機会の充実、学習の成果を地域づくりに活かす取組を進めていく。 生涯学習推進事業 村野藤吾設計である大庄公民館は、見学者も多く、平成26年度には、村野藤吾の没30年、また地域資産としての大庄公民館を知っていたため、見学会や歴史とみどころについての講演会等を行った。現在、見学会等における説明は職員が行っているが、平成27年度からは新たに大庄公民館の案内を行う人材を養成する「大庄公民館ボランティアガイド養成講座」を実施するなど、ボランティア活動ができる機会の充実、学習の成果を地域づくりに活かす取組を進めていく。(目標指標) 【学習と交流を通じたリーダーの発掘・ボランティアの養成等を通じ、市民主体の活動を支える人材育成等】 学社連携推進事業 地域による土曜学習支援モデル事業の実施にあたり、リーダーの発掘等を通じ、市民主体の活動を支える人材育成等に努めていく。 社会教育・地域力創生事業 地域で活動する、または活動しようとしているグループのリーダーを育成し、主体的に地域社会へ参画し、行動する人材を育成するための地域活動コーディネーター育成講座を実施している。受講修了生の中から、公民館事業の市民企画委員を輩出するなど、地域活動への参画を促すことができた。(目標指標)
主な事務事業	生涯学習推進事業
関連する目標指標	進捗
順調	概ね順調
やや遅れ	遅れている

## 3 市民意識調査(市民評価)

総合計画に掲げる20施策について、その進捗度や関連する項目の市民意識を把握するため、施策の「重要度」、取組の「満足度」についての現状をお伺いするアンケートを実施しました。

項目内容	重要度					満足度				
	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
生涯学習活動の支援と成果の活用 運動やスポーツによる市民の健康づくり	19.3%	37.1%	38.9%	3.7%	1.0%	2.8%	17.6%	64.0%	12.4%	3.2%
26年度	第18位 / 20施策		5点満点中		3.70点(平均3.99点)					
25年度	第17位 / 20施策		5点満点中		4.07点(平均4.39点)					
26年度	第4位 / 20施策		5点満点中		3.05点(平均2.95点)					
25年度	第4位 / 20施策		5点満点中		3.04点(平均2.91点)					

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。



## 5 施策評価結果(二次評価)

次年度に向けた取組方針
【多様な学習機会の提供と情報発信による市民参加の促進、関係機関との連携による社会教育施設の有効活用等】 平成25年度から公民館の機能強化を図っているが、今後、学びに着目したまちづくりを推進していくにあたり、6つの公民館があることを本市の強みと考え、学びに関する実践活動の拠点として位置付けるなか、職員のレベルアップを含めた組織体制の整備を図る。  【学習の成果を発表する機会やボランティア活動ができる機会の充実、学習の成果を地域づくりに活かせるようしくみづくり】 スクールサポーター(学習支援・特別支援・図書館ボランティアなど)の取組に対する支援に加え、地域住民の参画による学校の教育活動を支援する仕組みをつくり、様々な学校支援活動を実施する「学校支援地域本部」の設置に向けた検討を行う。
<b>新規・拡充の提案につながる項目</b> 【多様な学習機会の提供と情報発信による市民参加の促進、関係機関との連携による社会教育施設の有効活用等】 親子で社会教育施設を訪れ、共に学ぶ事業を実施するなど社会教育施設の有効活用を努めていく。 貸出冊数の増加に向け、公民館図書室については月～土曜日の貸出時間を延長するとともに、日曜日の貸出実施に向けた調整を進める。また、特別整理期間の短縮等により、図書館の開館日数の増加を図る。  【市民・ボランティアとの協働と学習グループ等の活動支援】 ボランティアによる図書の宅配サービスの実施に向けた取組を進める。  【学習の成果を発表する機会やボランティア活動ができる機会の充実、学習の成果を地域づくりに活かせるようしくみづくり】 学校教育と社会教育とが連携した事業展開に取り組んでいく。 学びの成果を地域活動につなげていくため、各地域における特色ある事業展開を行う。
<b>改革・改善の提案につながる項目</b> 【学習と交流を通じたリーダーの発掘・ボランティアの養成等を通じ、市民主体の活動を支える人材育成等】 地域コーディネーター育成講座については、実践を重ねていくなかで、地域活動を支える人材に対するアプローチ方法及び講座を通じた支援方法のあり方を検討していく。

評価と取組方針		
・公民館での講座受講者数や図書館行事への参加者数は増加しており、学習機会の提供と情報発信による市民参画の促進は図られている。  ・公民館については館運営にとどまらず、今後は、地域が抱える多様な課題を解決し、地域を活性化していく視点を持ち、学びの成果を地域活動につなげたり、学校活動と連携する機会を創出する仕組みづくりが必要である。  ・また、市民の自主的な学習を支援したり、学習成果を地域づくりに活かすためには、それらをコーディネートする人材の育成や、職員のレベルアップも必要となる。  上記取組方針を踏まえ、施策の2次評価は「転換調整」とし、より効果的な取組への転換に向け調整を行う。		
<b>総合評価</b>		
重点化	転換調整	現行継続

# 平成27年度 施策評価表 (平成28年度向け施策の取組方針)

施策名: 生涯学習  
 施策番号: 02 - 02

## 1 施策の基本情報

施策名	02 生涯学習	展開方向	02 健康の保持・増進を図るため、気軽に運動やスポーツを楽しめる環境づくりに取り組みます。
プロジェクト項目の該当有無	-		
市長公約の該当有無		24 市民の健康支援へのさらなる取組	
同重点課題項目の有無	-		
主担当局	教育委員会		

## 2 目標指標

指標名	方向	基準値	目標値 (H29)	実績値					現時点での達成率
				H25	H26	H27	H28	H29	
健康を意識した運動やスポーツを心がけている市民の割合		H23 63.7 %	66.8	71.0	63.3	**	**	**	0%
誘致大会観戦者及び市民スポーツ大会参加者数		H24 65,499 人	68,774	80,257	66,980	**	**	**	45.2%
生涯スポーツ・レクリエーション事業参加者数		H24 24,508 人	25,733	22,584	22,094	**	**	**	0%
学校開放利用者数		H24 735,935 人	772,731	677,323	689,578	**	**	**	0%
地区体育館等利用者数		H24 414,591 人	435,320	407,715	405,533	**	**	**	0%

## 4 担当局評価(一次評価)

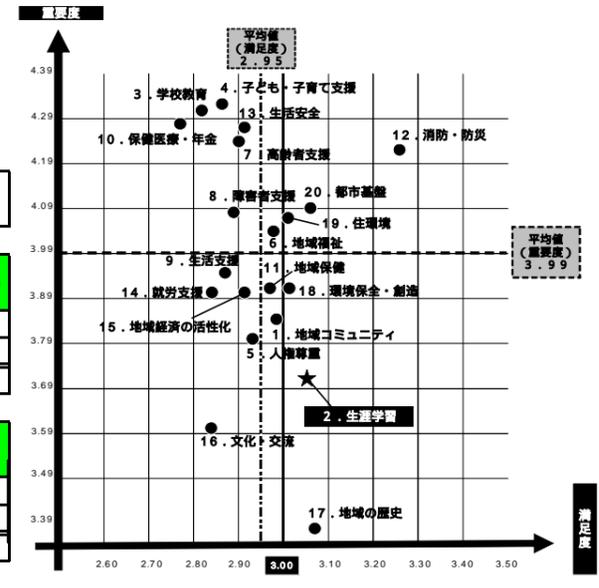
これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)	
<p><b>行政が取り組んでいくこと</b> 運動やスポーツによる市民の健康づくり                      [気軽にスポーツやレクリエーションに参加できる環境づくり]                      健康を意識した運動やスポーツを心がけている市民の割合を増やす取組                      後期計画の策定にあたり、前期で目標を達成できなかった「子ども」の体力向上、相対的にスポーツ実施率が低い「働く世代」や「女性」のスポーツ実施率向上、認知度が低い本市スポーツ振興事業やスポーツ施設に関する情報発信の強化などが課題となっていた。そこで、同計画では、事業を施策体系別に再整理するとともに、「スポーツのまち尼崎を目標として」を目標に掲げ、その取組の指標として、「健康を意識した運動やスポーツを心がけている市民の割合の10%増」を設定することで、目指すべき姿を明確化した。そのうえで、これらの課題の解決に向け、さまざまな取組を進めていくこととしているが、「情報発信」については、「あまスポ」を開設し、後期計画策定に先んじて情報発信の強化に取り組んでいる。(目標指標)</p> <p>スポーツのまち尼崎促進事業の誘致大会及び市民スポーツ大会事業                      スポーツのまち尼崎促進事業では、誘致大会が平成25年度に14大会あったものを平成26年度は10大会に整理したため、観戦者数は30%減となったが、1大会あたりの平均観戦者数で見れば2%減であり、概ね前年度並みの実績となっている。これまで、大会関係者以外の観戦者が少ない傾向が見られたことから、多くの市民、特に子どもの観戦を促すことにより市民スポーツの底辺拡大を図るため、平成25年度から、有名選手のサイン会などの取組を行っており、少子高齢化、人口減少といった悪条件下でも概ね前年度実績を確保できた。引き続きこうした工夫を行うことにより、当該事業の認知度を高め、観戦者の増加を図り、市民に自発的なスポーツ活動を促進していく。</p> <p>市民スポーツ大会事業の各種大会については、市報や市ホームページ、平成26年度に新たに開設したフェイスブック版・ホームページ版の「あまスポ」も活用することで、大会関係者だけでなく、一般市民にも広く広報しており、市民スポーツ祭、市長旗大会とも昨年度は概ね前年度並みの参加者数を確保できた。(目標指標)</p> <p>生涯スポーツ・レクリエーション事業(生涯スポーツサービスシステム事業及び子どもたちの体力づくりモデル事業)                      「生涯スポーツサービスシステム事業」のうち、市内8公園でスポーツ推進委員がグラウンド・ゴルフ及びベタンク競技の実技指導を行う「さわやか地域スポーツ活動」は、スポーツ推進委員の活躍により、平成24年度以降参加者が増加傾向にある。一方、市民からの要請により各種スポーツの指導等を行う「要請指導」は前年度より4%減少したため、市報や市ホームページ等での広報に引き続き取り組むことにより、事業の認知度を高め、参加者を増やし、より多くの市民にスポーツやレクリエーション活動の機会と場を提供していく。</p> <p>「子どもたちの体力づくりモデル事業」は、平成19年度から小学生を対象に実施している事業であるが、平成19年度に実施した新体力テストの結果と平成24年度の結果を比較しても、改善されたとは言いがたい。また、児童へのチラシ配布などの広報を行ったが、参加者が前年度の半数程度にまで落ち込んでいるため、子どもたちが運動を行う機会をできるだけ増やすよう、現行事業の見直しも含めた取組が必要である。(目標指標)</p> <p>学校開放事業                      市民のスポーツ活動の拠点として、市立小・中学校の体育館や運動場などのスポーツ施設を開放している。近年は耐震化工事による施設閉鎖の影響もあり、参加者が減少傾向にあったが、平成26年度は、施設利用増加に向けた働きかけを行ったこと等により前年度比2%増と、減少傾向に歯止めがかかった。なお、利用者が固定する傾向にあり、新規参加が難しいなどの課題については、地域スポーツの拠点として、できるだけ多くの市民にご利用いただけるよう、利用者の拡大のための工夫を行っていく。また、将来的には利用団体等で運営できるよう、体制の整備などの検討を進めている。(目標指標)</p> <p>地区体育館等施設運営事業                      「健康づくり教室」や「トレーニング指導」などの各種事業を実施することにより、スポーツへの関心と参加意欲を高め、健康づくりや地域コミュニティづくりの促進を図っている。スポーツ振興事業団が積極的にPRを行っているものの、利用者数はほぼ前年度並みで、ここ数年伸び悩んでいる。各体育館とも老朽化が著しく、こうしたことも利用者数の伸び悩みの原因の一つであると考えられることから、施設・設備を改善するほか、情報発信面でも工夫を行うなど、利用者増に向けた取組を行う必要がある。(目標指標)</p> <p>指定管理者であるスポーツ振興事業団については、新たなスポーツプログラムを開講するなど、積極的な事業展開を図っている。地区体育館の一般開放を行うスポーツプラザ事業は、ここ数年利用者が増加傾向にあるとともに、健康づくり教室についても、市民ニーズに応じた見直し等により、平成26年度はほぼ前年度並みを維持するなど、住民の心身の健全な発達と、明るく豊かな地域社会の発展に寄与している。特に障がい者スポーツの充実については、スポーツプラザ事業において障がいをお持ちの方を対象とした3種目の実施をはじめ、サウンドテニスなどのスポーツ教室を実施し、障がい者が気軽にスポーツを楽しめる環境づくりに努め、その充実を図っている。</p>	<p><b>次年度に向けた取組方針</b>                      [気軽にスポーツやレクリエーションに参加できる環境づくり]                      平成27年度から「尼崎市スポーツ推進計画」の後期5か年がスタートしており、当該計画に沿った取組を行うことで、本市のスポーツの推進を図ることとしている。                      当面、平成28年度向けの事業として、同計画において特に重点的に取り組むこととしている「子ども」や「働く世代」のスポーツ実施率の向上、そして、パブリックコメントにおいてご意見をいただいた「女性」のスポーツ実施率の向上に取り組むこととしている。                      その他、障がい者スポーツや、スポーツクラブ21などの団体に向けた取組など、同計画に掲げる施策に順次取り組んでいくことにより、「健康を意識した運動やスポーツを心がけている市民の割合の10%増」という数値目標を達成し、ひいては「スポーツのまち尼崎」の実現という目標に向けて、取り組んでいく。</p> <p><b>新規・拡充の提案につながる項目</b>                      [気軽にスポーツやレクリエーションに参加できる環境づくり]                      親子で参加できるスポーツ教室の拡充など、働く世代や女性が参加しやすい事業について、スポーツ振興事業団と連携しながら取り組んでいく。</p> <p><b>改革・改善の提案につながる項目</b>                      [気軽にスポーツやレクリエーションに参加できる環境づくり]                      学校開放事業について、将来的には「学校支援地域本部」も視野に入れるなか、その運営を地域に移行するための検討を進め、市制100周年にあたる平成28年度中には、モデル校での試行にこぎつけたい。</p>
<p>主な事務事業</p> <p>学校開放事業                      地区体育館等施設運営事業</p>	<p>関連する目標指標</p> <p>進捗</p> <p>順調</p> <p>概ね順調</p> <p>やや遅れ</p> <p>遅れている</p>

## 3 市民意識調査(市民評価)

総合計画に掲げる20施策について、その進捗度や関連する項目の市民意識を把握するため、施策の「重要度」、取組の「満足度」についての現状をお伺いするアンケートを実施しました。

項目内容	重要度					満足度				
	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
生涯学習活動の支援と成果の活用 運動やスポーツによる市民の健康づくり	19.3%	37.1%	38.9%	3.7%	1.0%	2.8%	17.6%	64.0%	12.4%	3.2%
26年度	第18位 / 20施策		5点満点中		3.70点(平均3.99点)					
25年度	第17位 / 20施策		5点満点中		4.07点(平均4.39点)					
26年度	第4位 / 20施策		5点満点中		3.05点(平均2.95点)					
25年度	第4位 / 20施策		5点満点中		3.04点(平均2.91点)					

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。



## 5 施策評価結果(二次評価)

評価と取組方針
<p>目標指標の各項目が総体的に減少傾向にあるが、生活習慣病や介護予防の観点からも市民の健康維持は重要な課題であるため、後期5か年がスタートした「尼崎市スポーツ推進計画」に基づき、より効果的な情報発信や事業実施手法を実践しながら、同計画の数値目標である「健康を意識した運動やスポーツを心がけている市民の割合の10%増」に向け取組を進めていく。</p> <p>学校開放事業については、地域に身近なスポーツの拠点として誰もが参加しやすくなる工夫を行い、利用者増に向けた取組を進めるとともに、将来的な地域での運営について、引き続き取組を進めていく。</p> <p>上記取組方針を踏まえ、施策の2次評価は「現行継続」とし、これまでの取組を基本としながら、効果的な施策遂行に努める。</p>
<p><b>総合評価</b></p> <p>重点化</p> <p>転換調整</p> <p>現行継続</p>

# 平成27年度 施策評価表 (平成28年度向け施策の取組方針)

施策名: 生涯学習  
 施策番号: 02 - 03

## 1 施策の基本情報

施策名	02 生涯学習	展開方向	03 生涯学習やスポーツ活動を通じて、生きがいがづくりや地域での交流を促進していきます。
プロジェクト項目の該当有無	-		
市長公約の該当有無		15 社会教育事業を進展させた仕組みとして「まち大学あまがさき」を推進	
同重点課題項目の有無		社会教育・地域力創生事業の推進	
主担当局	教育委員会		

## 2 目標指標

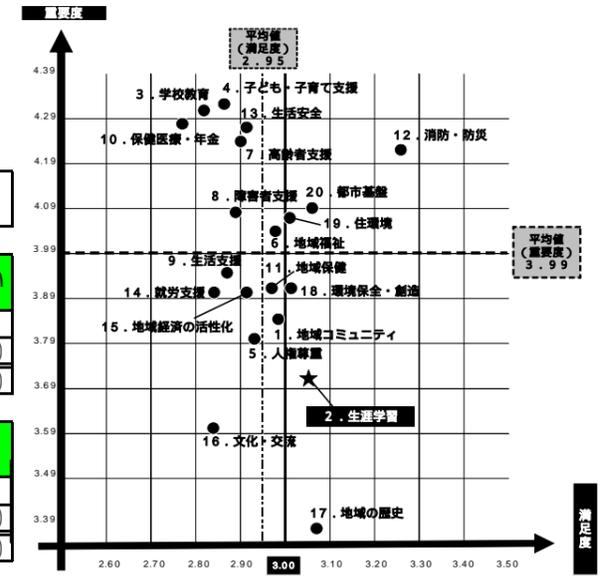
指標名	方向	基準値	目標値 (H29)	実績値					現時点での達成率
				H25	H26	H27	H28	H29	
家庭・地域教育推進事業等講座受講者数(公民館利用者数の内数)		H24 15,587	人 15,587	17,791	18,471	**	**	**	100%
公民館まつり参加グループ数		H24 277	団体 277	281	260	**	**	**	0%
公民館登録グループ数(4/1現在)		H24 338	団体 338	340	338	331	**	**	0%

## 3 市民意識調査(市民評価)

総合計画に掲げる20施策について、その進捗度や関連する項目の市民意識を把握するため、施策の「重要度」、取組の「満足度」についての現状をお伺いするアンケートを実施しました。

項目内容	生涯学習活動の支援と成果の活用 運動やスポーツによる市民の健康づくり				
重要度	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
26年度	19.3%	37.1%	38.9%	3.7%	1.0%
	第18位 / 20施策	5点満点中	3.70点(平均3.99点)		
25年度	第17位 / 20施策	5点満点中	4.07点(平均4.39点)		
満足度	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
26年度	2.8%	17.6%	64.0%	12.4%	3.2%
	第4位 / 20施策	5点満点中	3.05点(平均2.95点)		
25年度	第4位 / 20施策	5点満点中	3.04点(平均2.91点)		

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。



## 4 担当局評価(一次評価)

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)						
<p><b>行政が取り組んでいくこと</b> 市民の生きがいがづくりや交流の推進</p> <p>【歴史や文化等の地域資源を活用した学習の拡充】                  歴史や文化等の地域資源を活用した学習の拡充                  平成26年度は、地域資源に着目した事業として、中央公民館は「寺町見学会」、村野藤吾が設計した大庄公民館では「施設見学会」等を実施した。平成27年度はそれらを継続するとともに、青少年課が実施する「わくわく体験教室」とのコラボ事業として、文化財収蔵庫や田能資料館等を訪れ、歴史等を学ぶバスツアーを実施する。</p> <p>【誰もが生涯にわたって自由に学び、互いに高めあうことができるしくみづくり】                  家庭・地域教育推進事業                  地域のボランティアの協力を得ながら実施している「子育て学習世代間交流事業」では、各公民館と各地区保健センターの保健師及び地域事情に詳しい主任児童委員の方々とが連携し、地域ぐるみで子育てをサポートしていく体制づくりに努めている。また、平成26年度の参加者は延べ3,317人、前年度比192人増となっており、非常に人気が高く、家庭・地域教育推進事業の核となっている事業である。                  また、「ファミリーサポーター育成事業」など地域における子育てを支援するボランティアを育成する講座も実施しており、講座修了生による子育てに関するグループ化を支援するほか、前述の子育て学習世代間交流事業において、ボランティアとして活動してもらえよう取り組んでいるところである。このように、学んだことや経験を活かし、地域ぐるみで子育てができる環境づくりに大きく寄与している。(目標指標)</p> <p>市民参加・交流・連携事業                  障がいのある人々の学習ニーズに合った講座「ふれあい学級」を実施しており、障がい者と健常者が教養・生活文化・レクリエーション等の学習の場で交流する機会を創出し、障がい者の生きがいの醸成と社会参加を促進してきた。また、「ふれあい学級」に参加することによって、学習の場での仲間づくりや生きがいがづくりに繋がっていると、健常者との交流の場を通して相互理解が図られている。</p> <p>公民館登録グループ等の育成と成果発表の場の提供                  公民館では、公民館グループ等の育成に取り組むなど、市民の自主的な組織的・継続的学習活動を支援している。また、各公民館で毎年開催している「公民館まつり」では、公民館グループ等の活動の成果を発表し、グループ相互の交流や地域住民との交流促進に寄与するなど、市民が主体的に学ぶ生涯学習社会の実現に向けた事業として大きな役割を果たしている。平成27年度からは、公民館登録グループや公民館で活動する市民ボランティアによる子どもや親子向け公開講座「公民館夏休みオープンスクール」を実施することで、学習の成果を地域活動等につなげていく。(目標指標)</p> <p>誰もが生涯にわたって自由に学び、それぞれがかかわりあいを持ちながら、互いに高めあうことができるしくみづくり                  平成26年度は、旧梅香小学校敷地複合施設のあり方市民会議に社会教育委員会及び公民館運営審議会委員が参画し、各会議等における情報共有、意見調整を行った。平成27年度においては、平成26年度に市民会議においてまとめられた「学びあい、支えあい、繋ぎあいを育み、活発で元気な地域づくりを図る拠点」となるよう、取組を推進していく。また、「みんなの尼崎大学」についても平成26年度は「未来を拓く自治と協働のまちづくりを目指す研究会尼崎大会」の開催をはじめ、関係部局との連携を積極的に図った。平成27年度も引き続き、積極的な取組を推進していく。</p>						
主な事務事業	家庭・地域教育推進事業 市民参加・交流・連携推進事業	関連する目標指標	進捗	順調	概ね順調	やや遅れ 遅れている

次年度に向けた取組方針	
【歴史や文化等の地域資源を活用した学習の拡充】 歴史や文化等の地域資源を活用した学習の拡充に向けた取組について、積極的に推進していく。  【誰もが生涯にわたって自由に学び、互いに高めあうことができるしくみづくり】 市民交流の推進のみならず、地域で子育てを支援する仕組みづくりとして、とても効果的であるため、今後も、関係機関や主任児童委員、市民ボランティアなどの協力を得、効果的な事業展開を図っていく。  学びの成果を地域活動につなげていくため、職員のレベルアップも含めた組織体制の整備を図るなか、公民館グループの育成、講座修了生によるグループ化を支援するなど、公民館のコーディネート機能を強化していく。また、「公民館まつり」については、更なるグループ相互の交流や、より幅広い市民の参画を得る機会となるよう、公民館グループ以外にとっても馴染みやすい愛称をつけるなど工夫を凝らしていく。	
新規・拡充の提案につながる項目	
【歴史や文化等の地域資源を活用した学習の拡充】 子どもや親子が、小学生の副読本「わたしたちの尼崎」に掲載されている施設等を訪問する事業を実施し、尼崎の歴史等に実際に触れ、学ぶ機会を提供するとともに、文化財収蔵庫や田能資料館と連携するなか、歴史や文化等の地域資源を活用した学習の拡充について、検討を行う。	
改革・改善の提案につながる項目	

## 5 施策評価結果(二次評価)

評価と取組方針		
・子育てに関する各種取組については、参加者数の増や交流促進が図られており、地域で子育てを支援する環境づくりに寄与していることから、引き続き現行の取組を進めていく。  ・少子化・高齢化や価値観の多様化といった社会環境の変化を踏まえながら、生きがいがづくりや地域での交流促進を図るためには、誰もが自由に学ぶことのできる機会や学びの成果を活かす機会の提供が必要であり、それらを提供しつづける役割として、引き続き公民館のコーディネート機能の強化に向けた取組を進めていく。  ・また、引き続き旧梅香小学校敷地において、市民の出会い、学び合い、支え合い、繋ぎ合いと、活発で元気な地域づくりを創出する拠点施設の整備を進める。  上記取組方針を踏まえ、施策の2次評価は「転換調整」とし、より効果的な取組への転換に向け調整を行う。		
総合評価		
重点化	転換調整	現行継続